第3章

竜王町の現状と課題

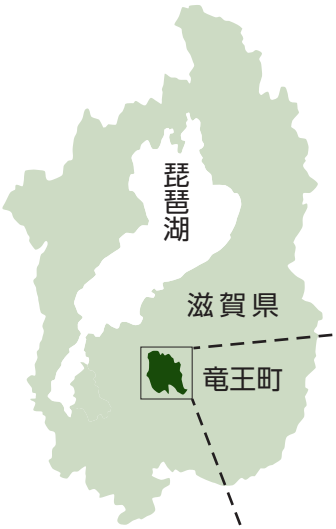
第 1 節　地域の概要
　1－1　竜王町の環境（土地・気象）
　1－2　人口
　1－3　産業
　1－4　生活環境
第 2 節　特性と課題
　2－1　アンケート実施《平成27年2月実施》の概要
　2－2　町民、中学生へのアンケート結果
　2－3　事業者へのアンケート結果
　2－4　アンケートまとめ

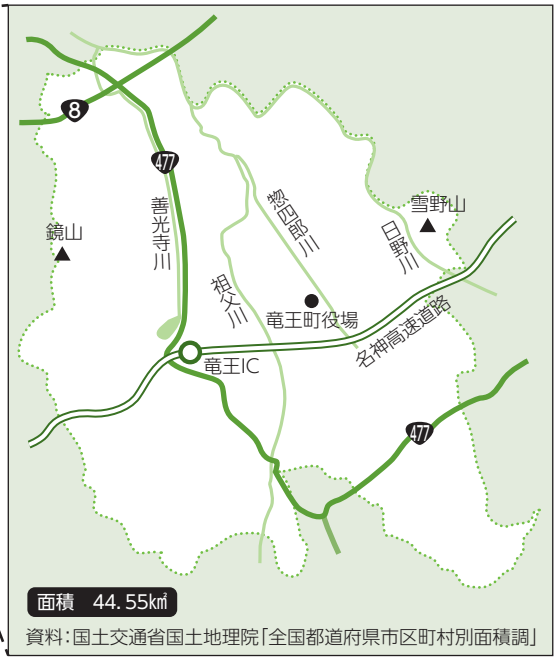
第3章 竜王町の現状と課題

第1節 地域の概要

1－1 竜王町の環境（土地・気象）

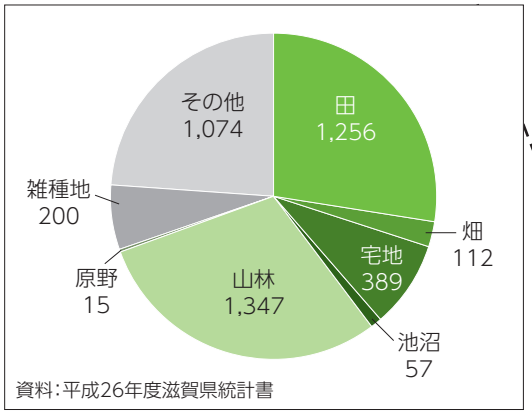
竜王町は、滋賀県の東南部湖東平野に位置し、東に雪野山、西に鏡山という2つの山に囲まれています。総面積の30％を水田が占めており、農業のまちとして知られているほか、埋蔵文化財や史跡、社寺など、歴史的遺産が豊富に存在しています。





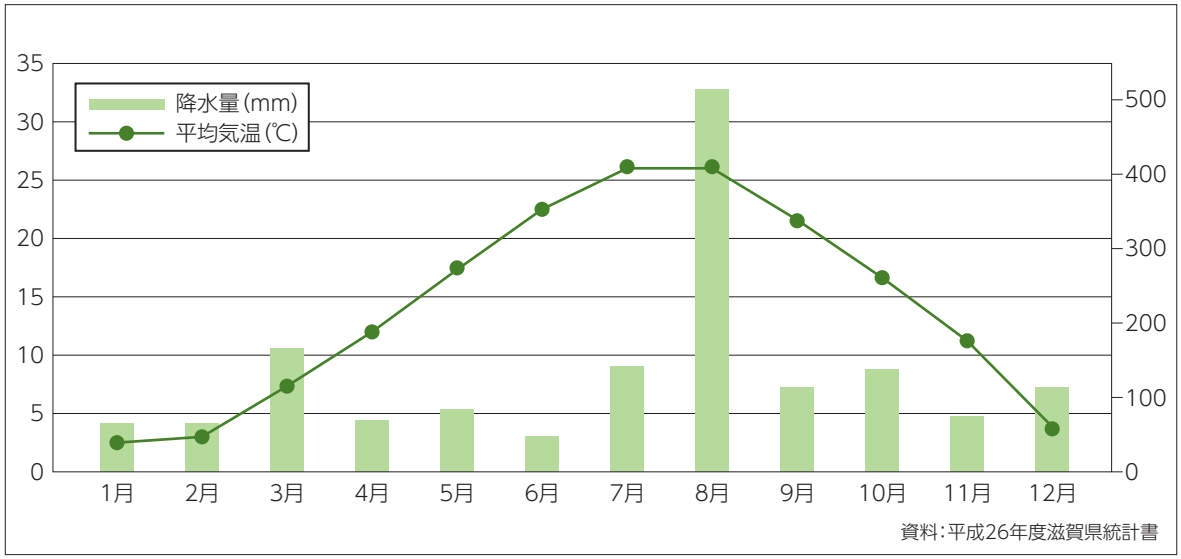
資料：国土交通省国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」

■土地利用種類別面積（単位：ha）



資料：平成26年度滋賀県統計書

■月別平均気温・降水量【平成26年（2013）年】

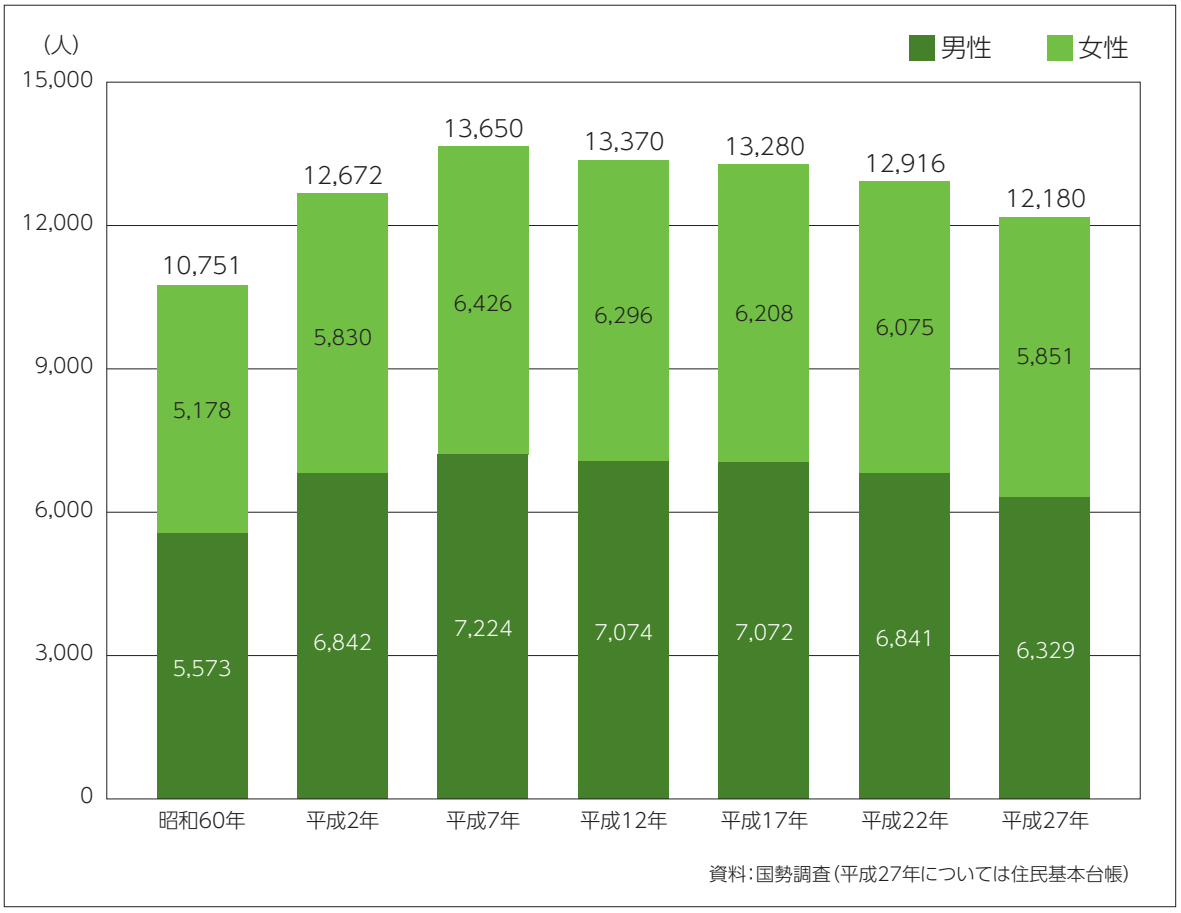


資料：平成26年度滋賀県統計書

1−2 人口

総人口の推移

竜王町の人口は、平成7年の 13,650 人をピークに横ばいから微減傾向が続いています。



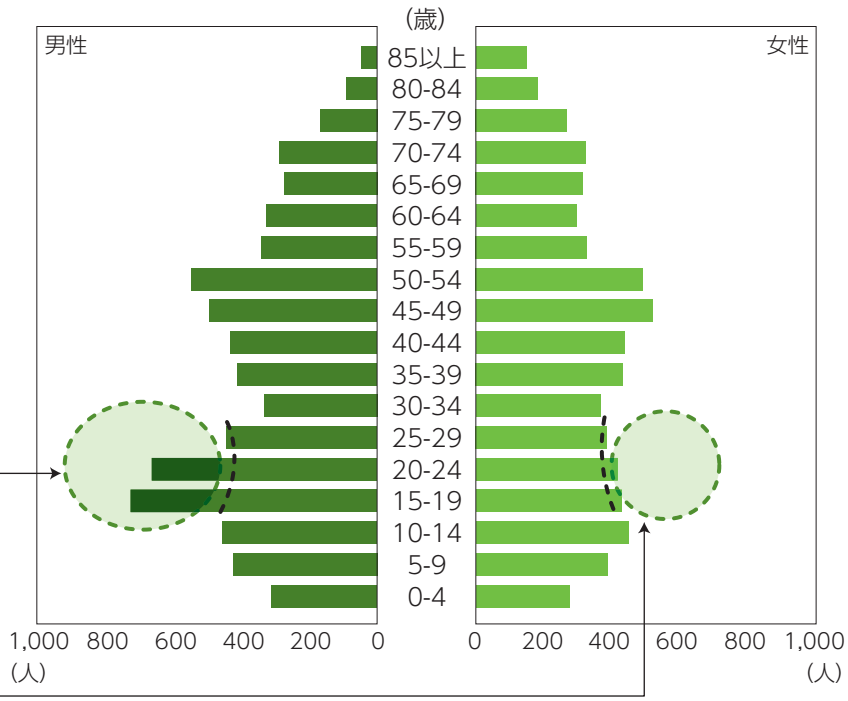
資料：国勢調査（平成27年については住民基本台帳）

人口構造の変遷

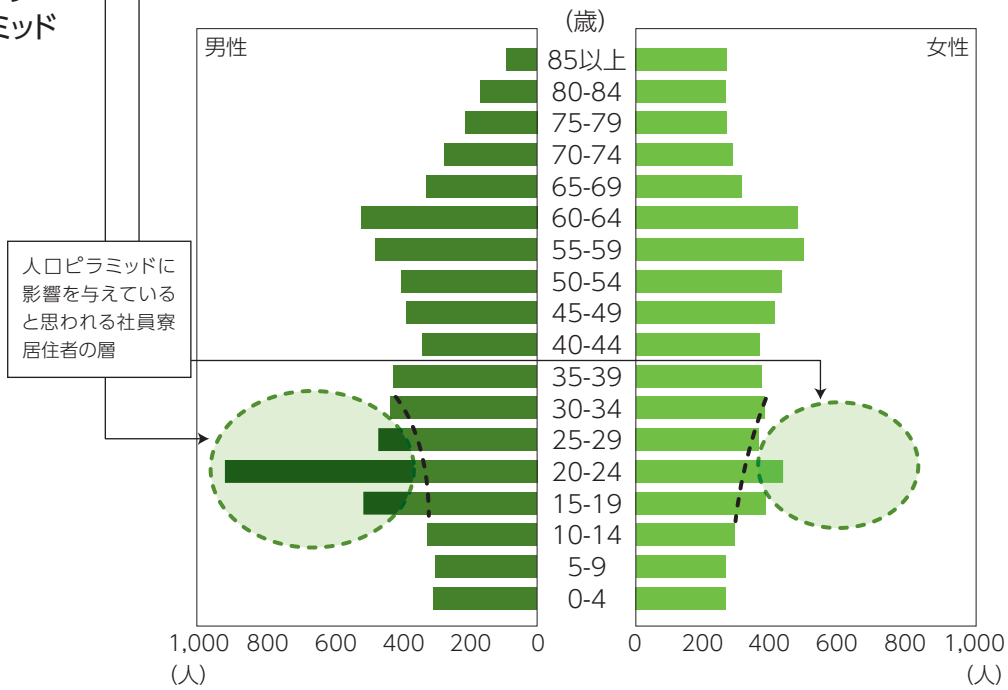
人口ピラミッドを見ると、平成12年には「15-19歳」「20-24歳」の男性が特に多くなっていたものが、平成22年では「20-24歳」がさらに突出して多くなっており、企業の社員寮に住んでいる人が増えたことが影響しているものと想定されます。

また、平成12年で「45-49歳」「50-54歳」だった、いわゆる団塊の世代が、平成22年では「55-59歳」「60-64歳」の世代となっており、今後10年間で、高齢化はさらに加速するものと推測されます。

■平成12年の人口ピラミッド



■平成22年の人口ピラミッド



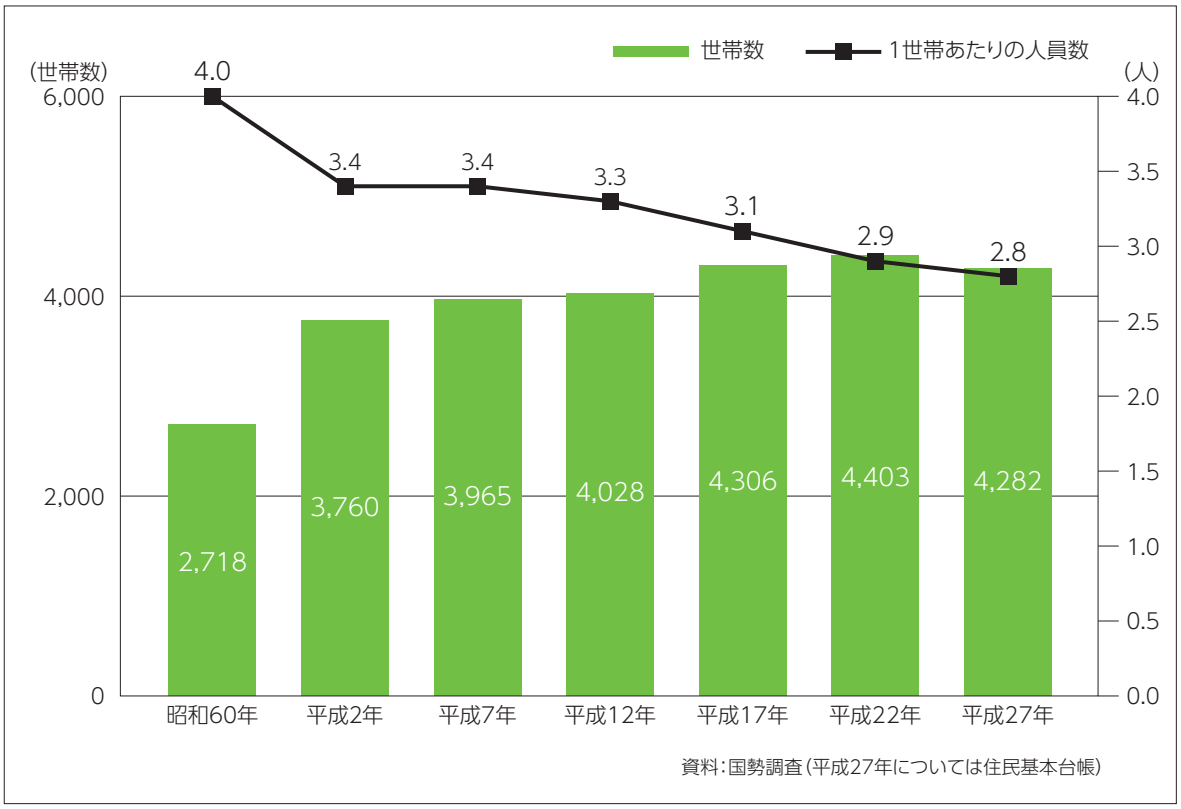
資料：国勢調査

世帯数の推移

人口と世帯数の推移

竜王町の世帯数は、増加を続けておりましたが、近年は微減の傾向にあります。平成27年で4,282世帯となっています。

1世帯あたり人員数は減少傾向にあり、平成27年で2.8人となっています。



資料：国勢調査（平成27年については住民基本台帳）

高齢者世帯の状況

高齢者世帯数は年々増加しており、特に高齢者単身世帯、高齢者夫婦世帯は急増しています。

	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	増減率
一般世帯	2,718	3,760	3,965	4,028	4,306	4,403	+62.0%
65歳以上の親族のいる一般世帯	1,013	1,152	1,334	1,429	1,531	1,611	+59.0%
一般世帯に占める高齢者帯の割合	37.3%	30.6%	33.6%	35.5%	35.6%	36.6%	−
高齢者単身世帯	37	37	46	66	90	142	+283.8%
高齢者夫婦世帯	52	53	72	81	177	259	+398.1%

資料：国勢調査

1−3 産業

産業別事業所数・従事者数の推移

事業所数は増加傾向にあり、特に卸売・小売業、飲食店の事業所数・従業員数の増加が顕著に見られます。

区　分	平成13年		平成18年		平成21年		平成24年		平成26年	
	事業所数	従業員数	事業所数	従業員数	事業所数	従業員数	事業所数	従業員数	事業所数	従業員数
総　数	505	7,862	489	9,903	526	10,704	628	10,828	724	12,619
農林漁業	5	47	8	83	11	118	11	141	11	156
鉱業	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
建設業	103	506	92	467	97	488	87	427	83	509
製造業	72	5,114	76	6,972	76	7,147	82	6,611	75	7,328
電気・ガス・熱供給・水道業	2	6	1	7	1	19	−	−	1	7
運輸・通信業	13	392	15	425	20	433	20	416	20	417
卸売・小売業、飲食店	155	877	137	865	148	1,226	268	2,325	331	2,718
金融・保険業	6	37	7	39	7	42	8	44	7	47
不動産業	−	−	2	3	6	34	7	13	6	27
サービス業	144	774	145	948	154	1,119	145	851	184	1,299
公務（他に分類されないもの）	5	109	6	94	6	78	−	−	6	111

資料：企業統計調査（平成24年については経済センサス）

農家数・農家人口・経営耕地面積の推移

販売農家数は減少していますが、専業農家数は増加しています。また経営耕地面積のうち、田・畑は減少していますが、樹園地は増加しています。

年	販売農家数（戸）	専業農家数（戸）	兼業農家数（戸）		経営耕地面積（a）			
			第一種	第二種	田	畑	樹園地	計
平成 7（1995）年	983	25	57	962	123,822	6,548	968	131,338
平成12（2000）年	906	32	37	837	122,101	4,141	2,154	128,396
平成17（2005）年	796	38	65	693	118,474	3,839	4,545	126,858
平成22（2010）年	666	48	51	567	117,252	3,364	2,079	122,695

資料：農林業センサス

畜産農家の推移

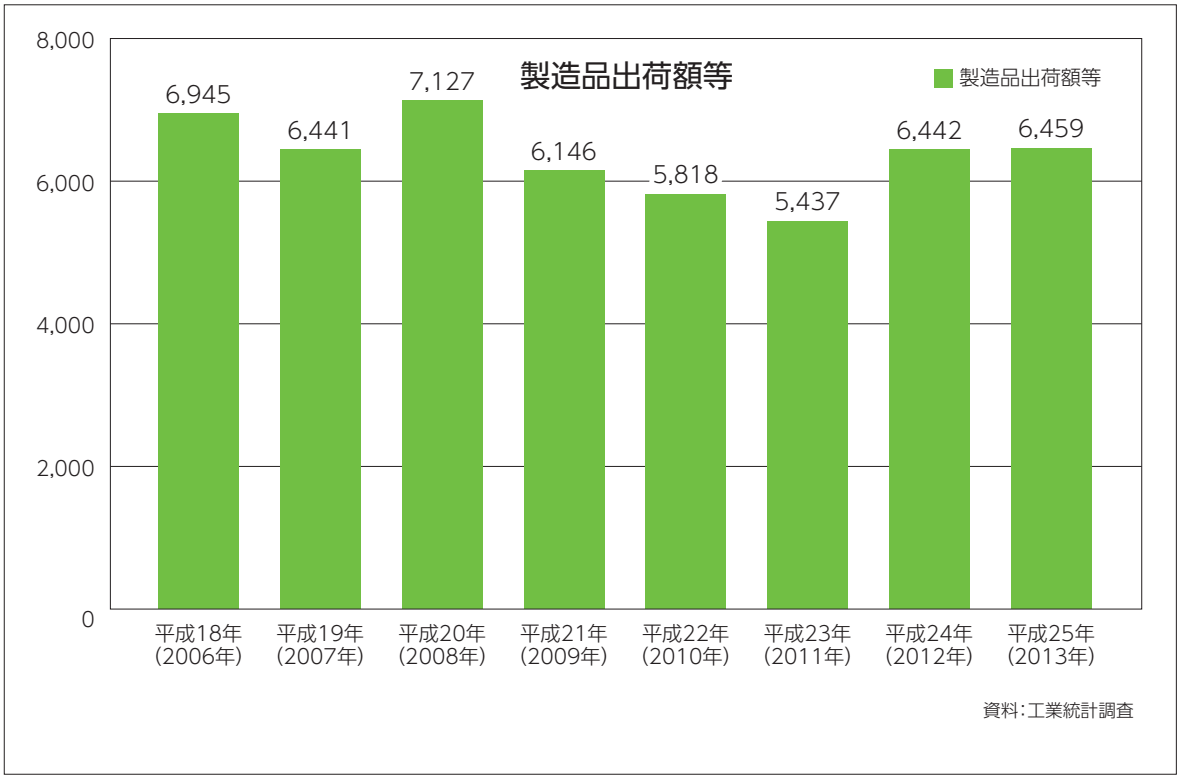
飼養経営体数は減少傾向にあります。肉用牛の飼養頭数は平成17年度をピークに減少に転じています。

年	乳用牛		肉用牛		豚		採卵鶏		ブロイラー	
	飼養経営体数	飼養頭数	飼養経営体数	飼養頭数	飼養経営体数	飼養頭数	飼養経営体数	飼養頭数	出荷した経営体数	出荷羽数
平成 7(1995)年	7	238	8	1,721	−	−	11	136,200	1	65,000
平成12(2000)年	5	195	8	2,303	−	−	7	108,300	1	×
平成17(2005)年	3	128	11	2,789	−	−	5	87,300	−	−
平成22(2010)年	3	115	5	2,177	−	−	3	28,000	1	×

※ ×･･･調査客体が少ないため秘密保護の観点から数値を秘匿したことを示す。　　資料：農林業センサス

工業の推移

製造品出荷額等は、平成20年度をピークに減少に転じていましたが、平成23年度を底として平成24年度以降増加に転じています。



資料：工業統計調査

商業の推移

小売業は平成22年にアウトレットモール、平成23年にタウンセンターエリアに商業施設が開業されたことより、平成26年の調査において全ての項目が大きく増加しました。

年	卸売業			小売業			合　計		
	事業所	従業者(人)	年間商品販売額(万円)	事業所	従業者(人)	年間商品販売額(万円)	事業所	従業者(人)	年間商品販売額(万円)
平成 9(1997)年	12	106	742,812	103	457	662,445	115	563	1,405,257
平成11(1999)年	17	138	751,316	104	502	684,810	121	640	1,436,126
平成14(2002)年	14	91	515,732	100	518	653,795	114	609	1,169,527
平成16(2004)年	16	98	1,056,121	96	491	670,055	112	589	1,726,176
平成19(2007)年	18	154	1,382,507	92	474	617,522	110	628	2,000,029
平成26(2014)年	17	104	1,013,200	162	1,225	2,619,600	179	1,329	3,632,800

資料:商業統計調査

1−4 生活環境

ごみ処理の推移

処理人口は減少傾向が続いていますが、収集量は増加傾向です。

	処理人口(人)	年間総収集量(t)
平成21(2009)年	13,305	3,099
平成22(2010)年	13,131	3,328
平成23(2011)年	12,923	3,417
平成24(2012)年	12,730	3,476
平成25(2013)年	12,711	3,766
平成26(2014)年	12,432	3,815

※中部清掃組合への年間搬入量

資料:滋賀県統計書

し尿処理の推移

処理人口および、収集量ともに減少傾向となっています。

	処理人口(人)	年間総収穫量(キロリットル)
平成21(2009)年	1,073	1,195
平成22(2010)年	1,012	1,166
平成23(2011)年	947	1,002
平成24(2012)年	751	915
平成25(2013)年	940	789
平成26(2014)年	879	740

資料:滋賀県統計書

水道の普及状況

人口 (人)	上水道 給水人口(人)	専用水道 給水人口(人)	合計 (人)	普及率 (%)
12,432	12,054	378	12,432	100

資料：平成26年滋賀県統計書

下水道の普及状況

整備済み面積 (ha)	行政人口 (人)	処理人口 (人)	普及率 (%)
388.3	12,432	10,561	85.0

資料：平成26年滋賀県統計書

第２節　特性と課題

竜王町における良好な環境の形成に向けて豊かな自然環境、快適な生活環境の保全など自然と共生した環境保全を目指し、省資源・省エネルギーおよび循環、リサイクルによる環境負荷の低減を重視し、今後の望ましい環境像と基本目標、環境基本施策、環境配慮指針等について検討を行い「竜王町環境基本計画」を策定するため、アンケートを実施しました。

2−1　アンケート実施《平成27年2月実施》の概要

アンケート実施《平成27年2月実施》の概要

区　　分	アンケート方法	有効回答数	有効回答率
町　　民	無作為抽出した町内在住の満18歳以上の町民に、郵送によりアンケート用紙を配布・回収	446人	44.6%
中学生	教育委員会および竜王中学校の協力を得て、中学3年生を対象に実施	103人	100%
事業者	無作為抽出した町内事業者に、郵送によりアンケート用紙を配布・回収	37人	74.0%

2−2　町民、中学生へのアンケート結果

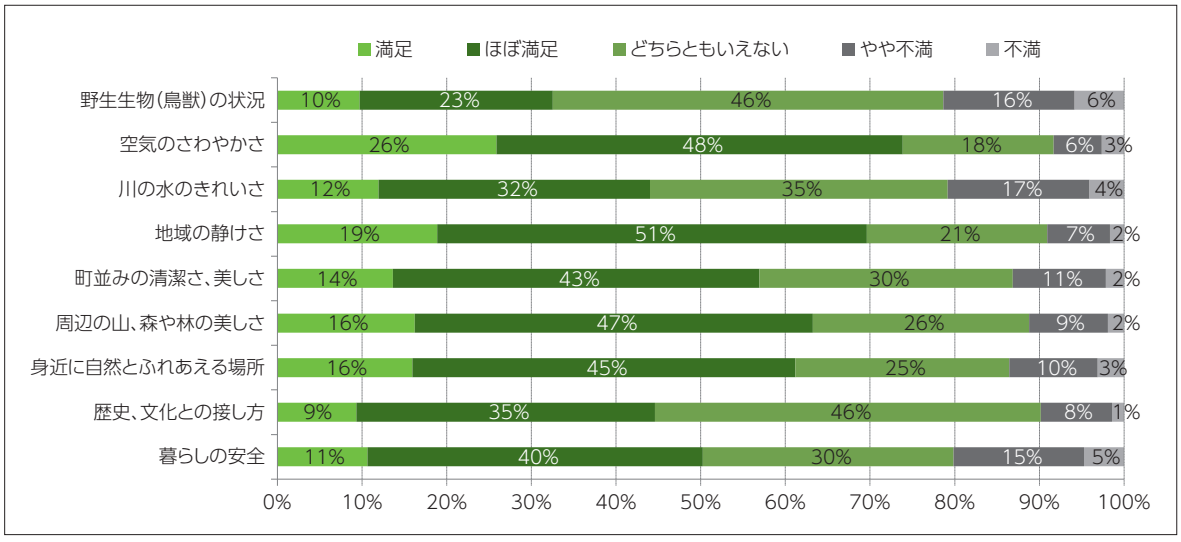
1 竜王町の環境について

①町民

町民の環境についての満足度は、全体において「不満」「やや不満」以外の回答で約80%以上を超える結果となっている。

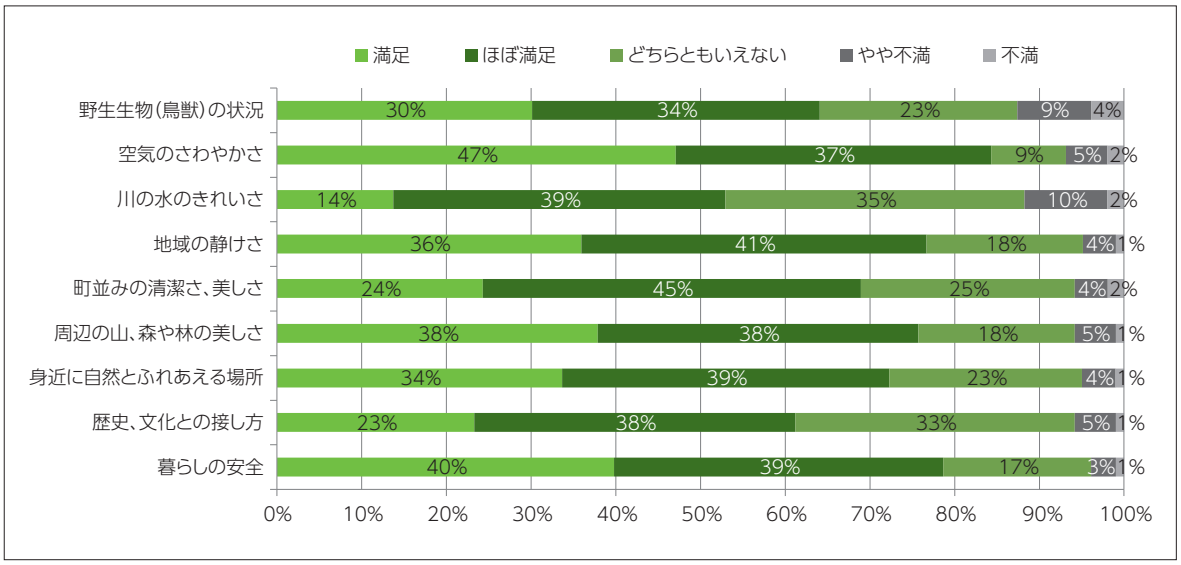
野生生物〈鳥獣〉の状況の満足度が低いのは、鳥獣による農作物の被害が回答に影響していると考えられる。

また、川の水のきれいさ、歴史、文化との接し方はそれぞれ「満足」「ほぼ満足」を合せても50%を下回る結果となっている。



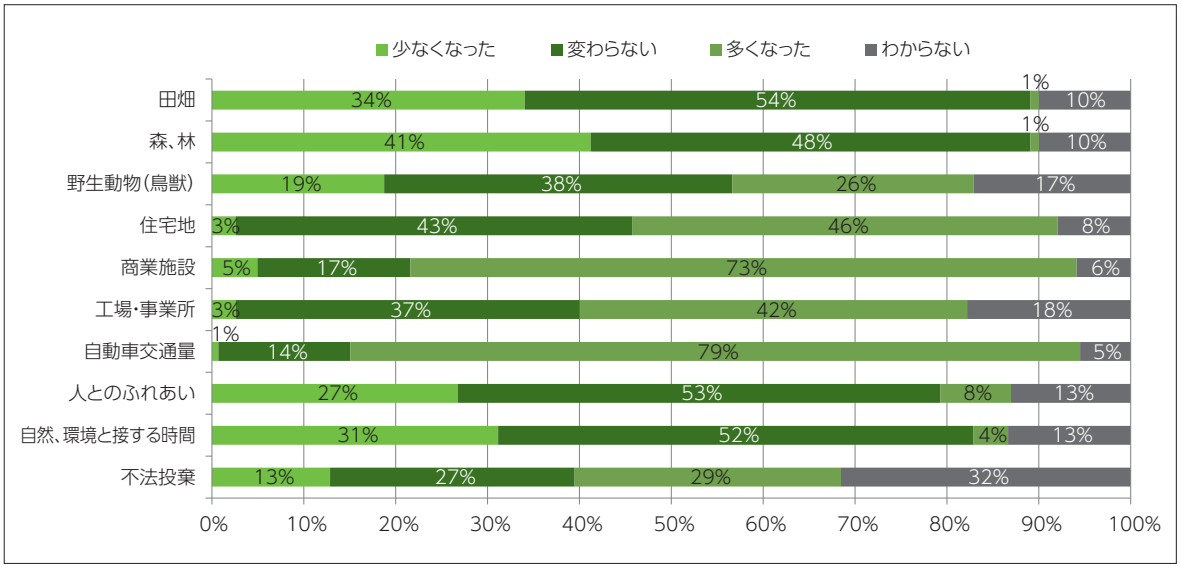
②中学生

中学生の環境についての満足度は、全体において「不満」「やや不満」以外の回答で約90%以上を超える結果となっている。「川の水のきれいさ」については、「満足」「ほぼ満足」を合せても約50%にとどまっている。



2 最近10年間の竜王町の状況の変化について（町民のみ）

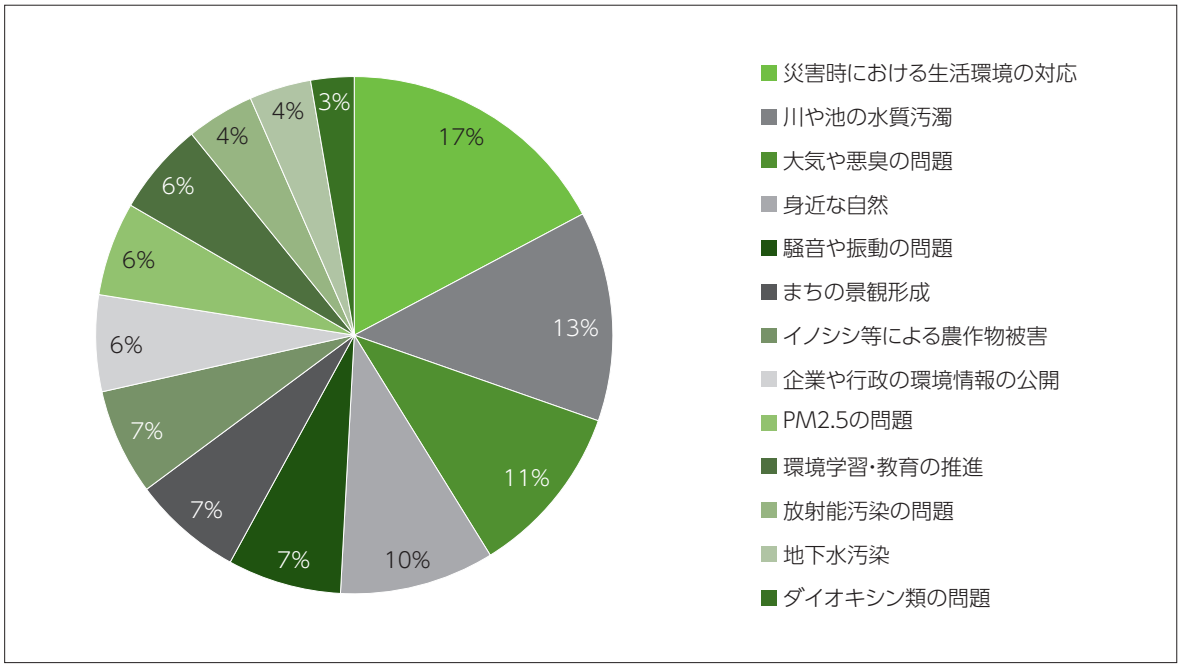
田畑・森、林など基本的な地理的環境については「少なくなった」と回答された方が40%近くとなり、一方で住宅地・商業施設・工場事業所・自動車交通量についての回答でそれぞれ「多くなった」が最多となっていることから、都市化が感じられていると推察される。



3 住みよい環境を作る上で、関心があること

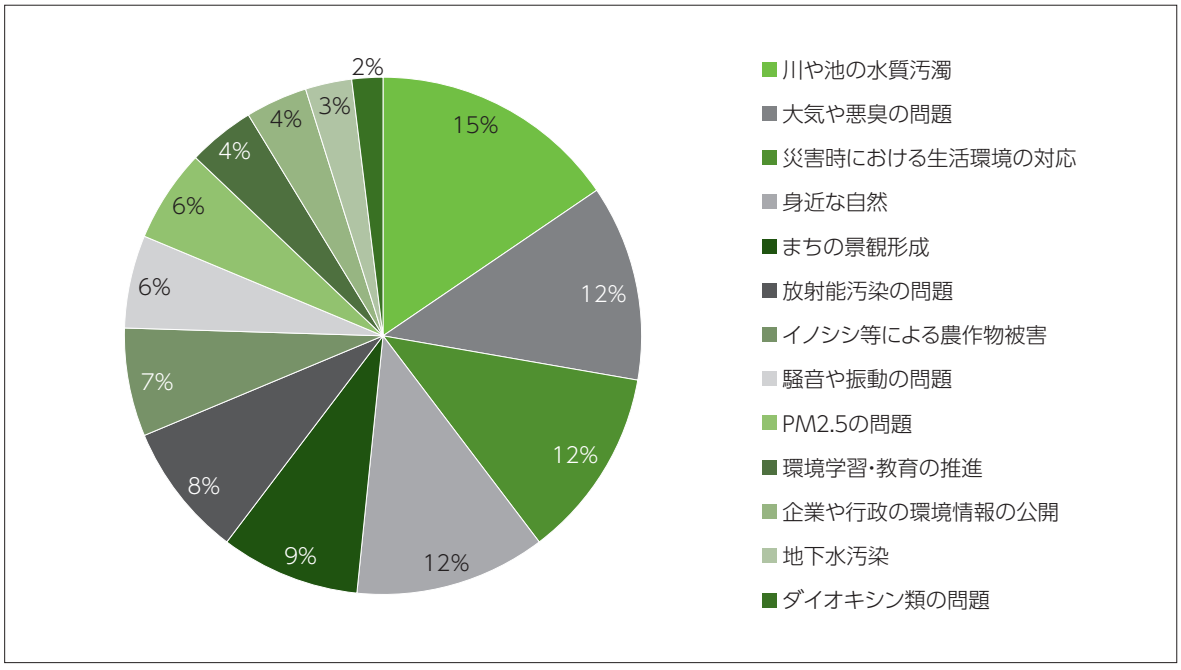
①町民

身近な環境の指標である、水質汚濁・大気汚染の関心が高いが、ただそれらを「災害時の生活環境」が上回る結果となった。昨今各地で発生している自然災害の状況が背景にあると考えられる。



②中学生

身近な環境の指標である、水質汚濁・大気汚染の関心が高い。ただそれらに続き「災害時の生活環境」の関心が高い結果となった。昨今各地で発生している自然災害の状況が背景にあると推測される。

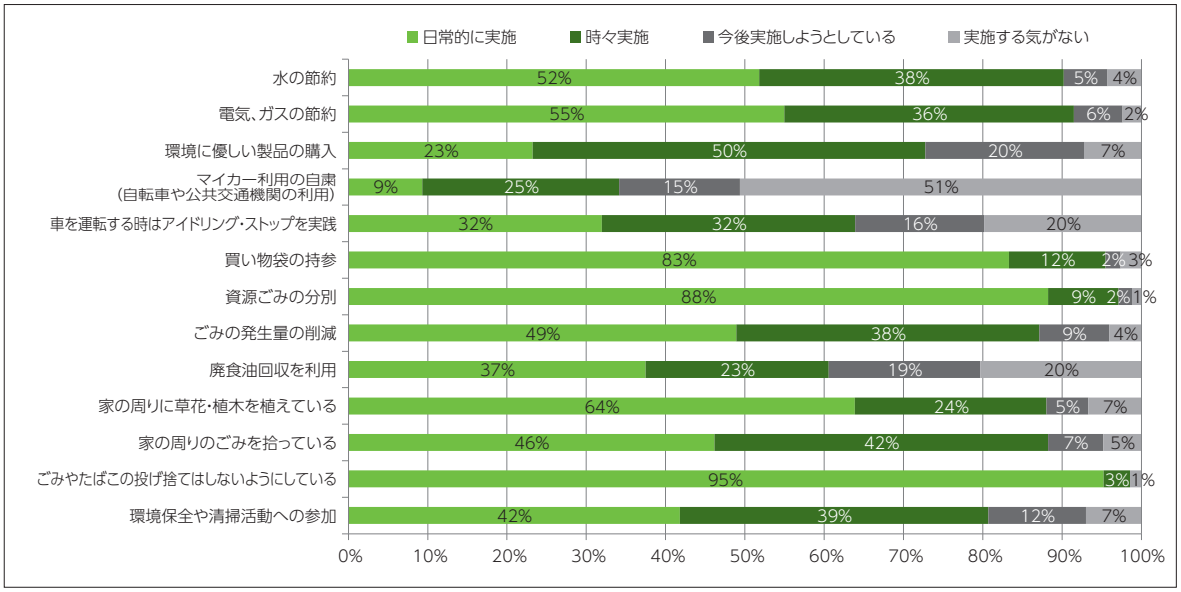


4 日常生活において取り組んでいる行動について

①町民

資源の節約、再利用、ごみの削減、緑化、都市景観の保全に関することについては、「日常的に実施」「時々実施」「今後実施しようとしている」の回答が90%以上となり、環境への高い意識と行動がみられる。一方、「マイカー利用の自粛」については「実施する気がない」が51%となった。

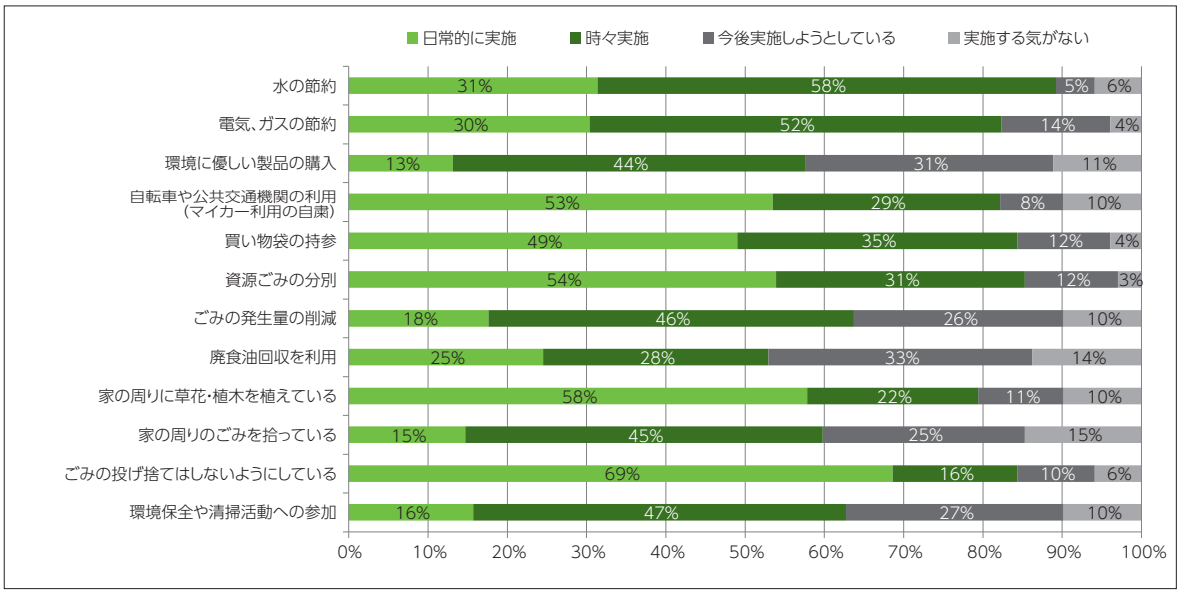
また、廃食油回収を利用については、「日常的に実施」「時々実施」を合せて60%、「今後実施しようとしている」は19%の回答を得た。



②中学生

全ての設問に対して「日常的に実施」「時々実施」「今後実施しようとしている」の回答が84%以上となり、環境への高い意識と行動がみられる。

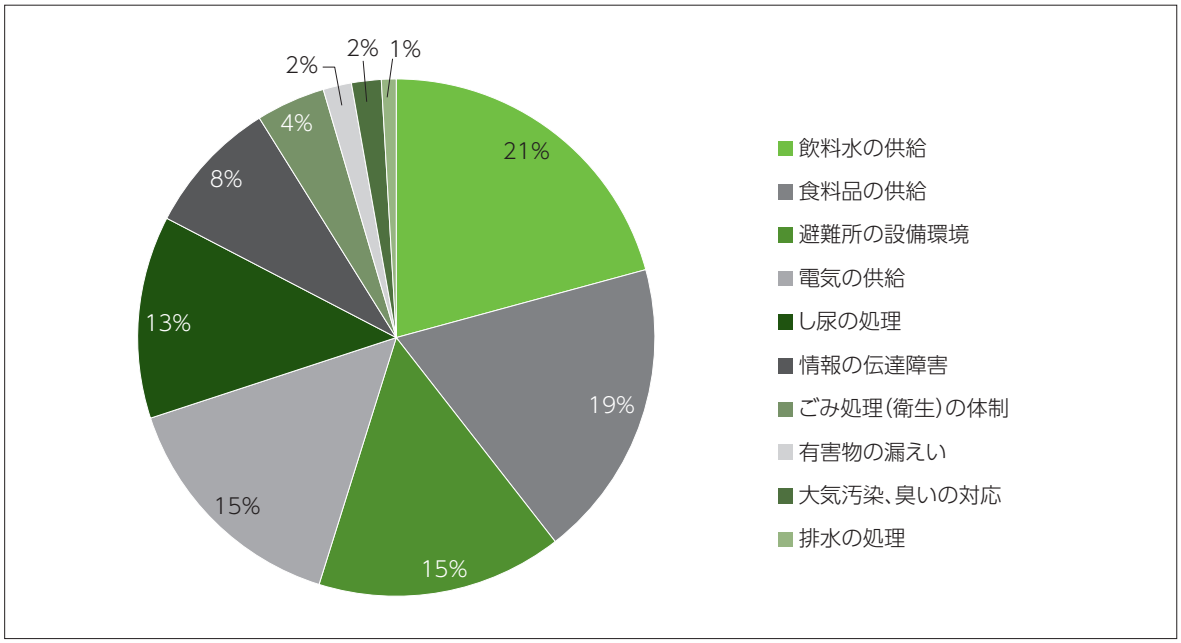
ただ、「ごみの投げ捨てはしないようにしている」の設問では、「日常的に実施」が一般町民の95%に対し、69%と低い結果となっている。



5 被災時における生活環境の対応について、心配があること

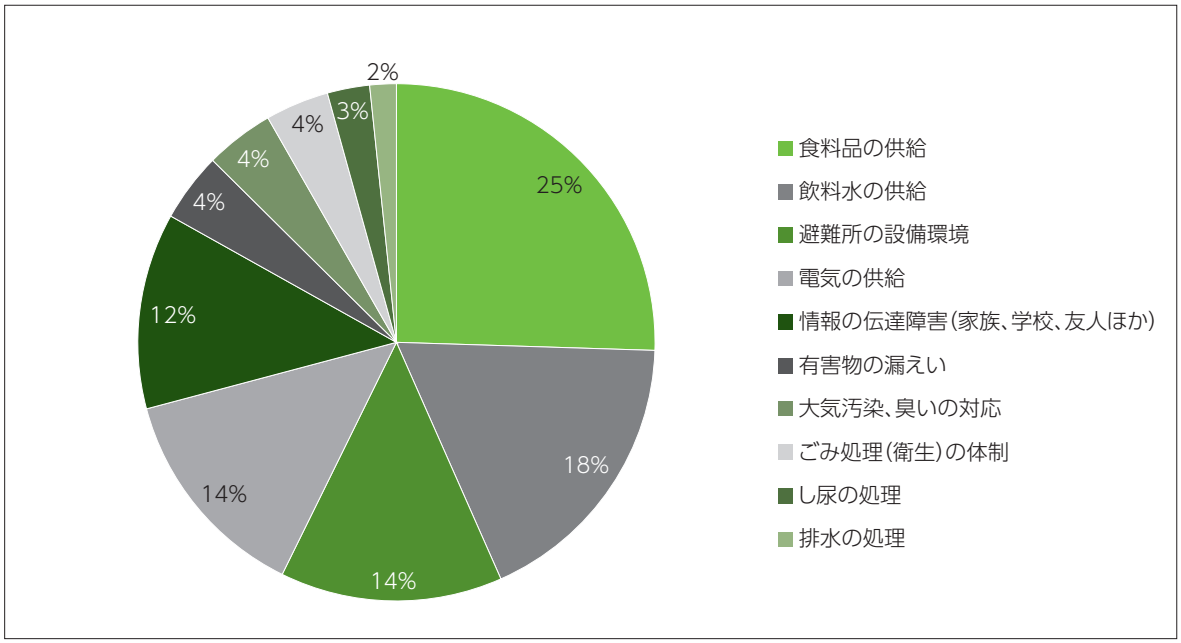
①町民

飲料水の供給、食料品の供給、避難所の設備環境、電気の供給の順に関心が高い結果を示した。衛生、公害に関するところではし尿処理への関心が高い結果を示した。



②中学生

一般住民と同じく飲料水の供給、食料品の供給、避難所の設備環境、電気の供給の順に関心が高い結果を示した。次いで情報の伝達障害について関心が高い結果を示した。衛生、公害に関しては、あまり関心が高くなかった。



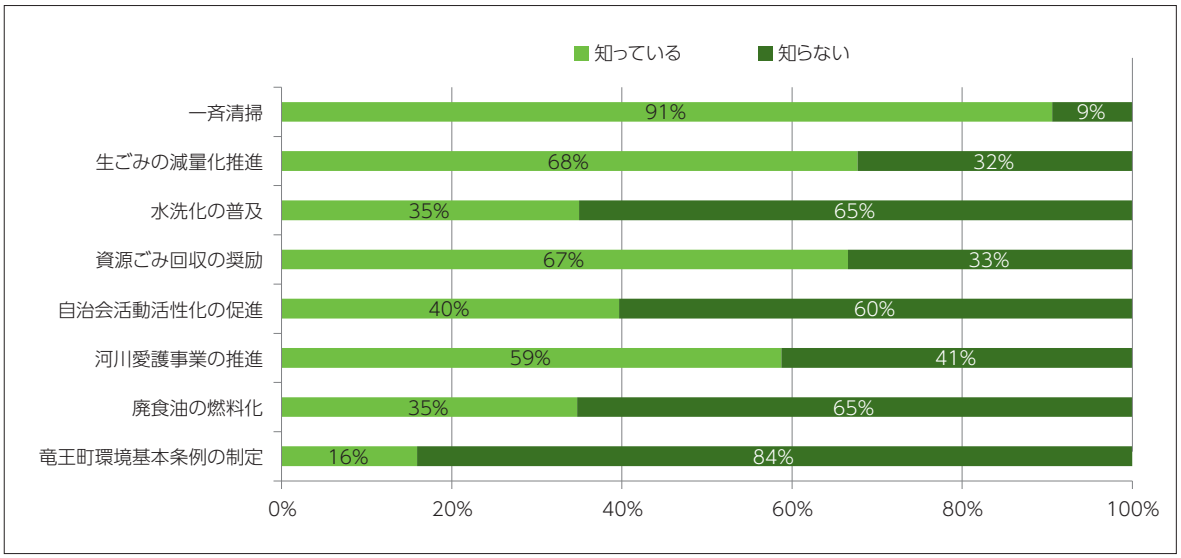
6 竜王町で実施している環境保全の取組みや補助制度の認知状況について

①町民

一斉清掃、生ごみの減量化推進、資源ごみ回収の奨励、河川愛護事業の推進については、半数以上の「知っている」の回答があった。

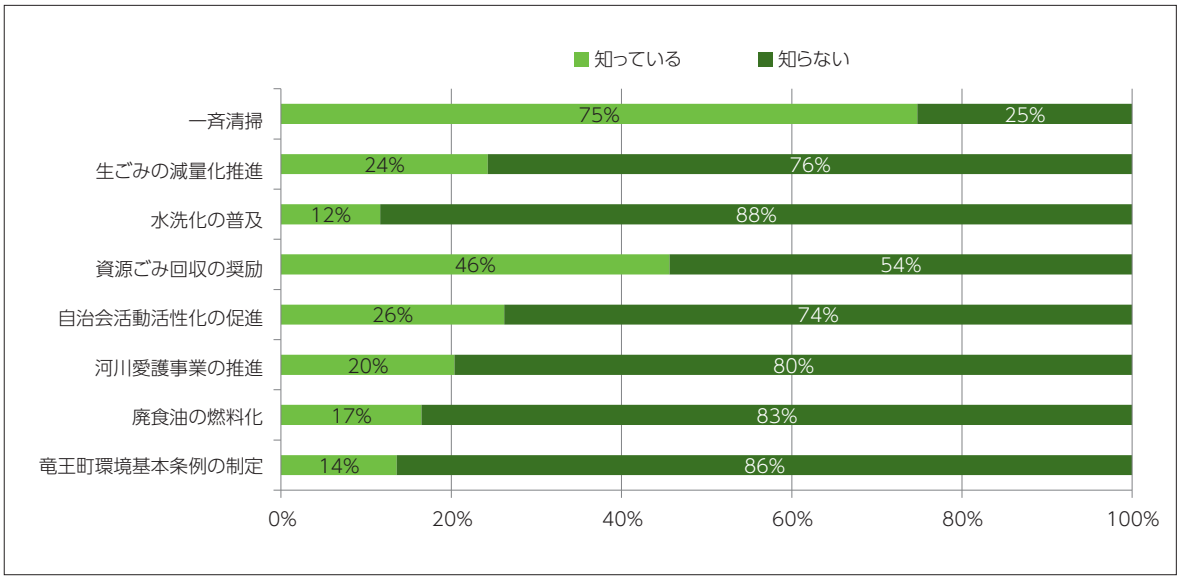
廃食油の燃料化については、35%の認知に留まっている。

また、環境基本条例の制定については、16%と低い認知状況となった。



②中学生

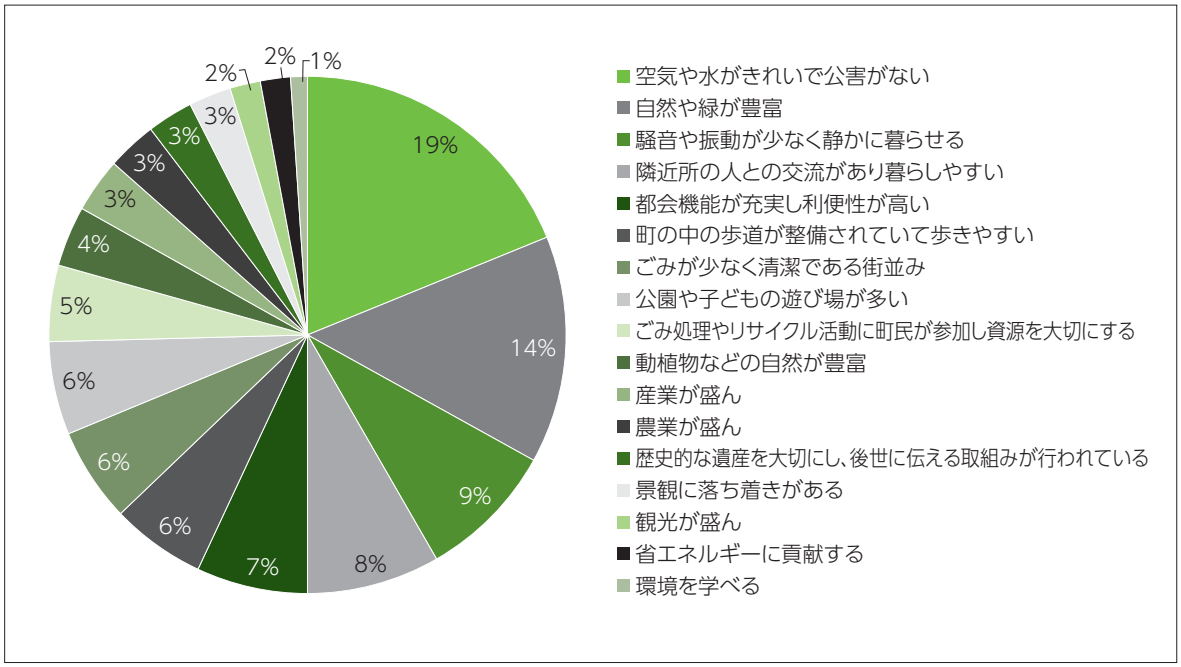
一斉清掃は75%と高い認知が確認されているが、それ以外については全てにおいて認知が半数に至っていない。



7 あなたにとって快適な環境について

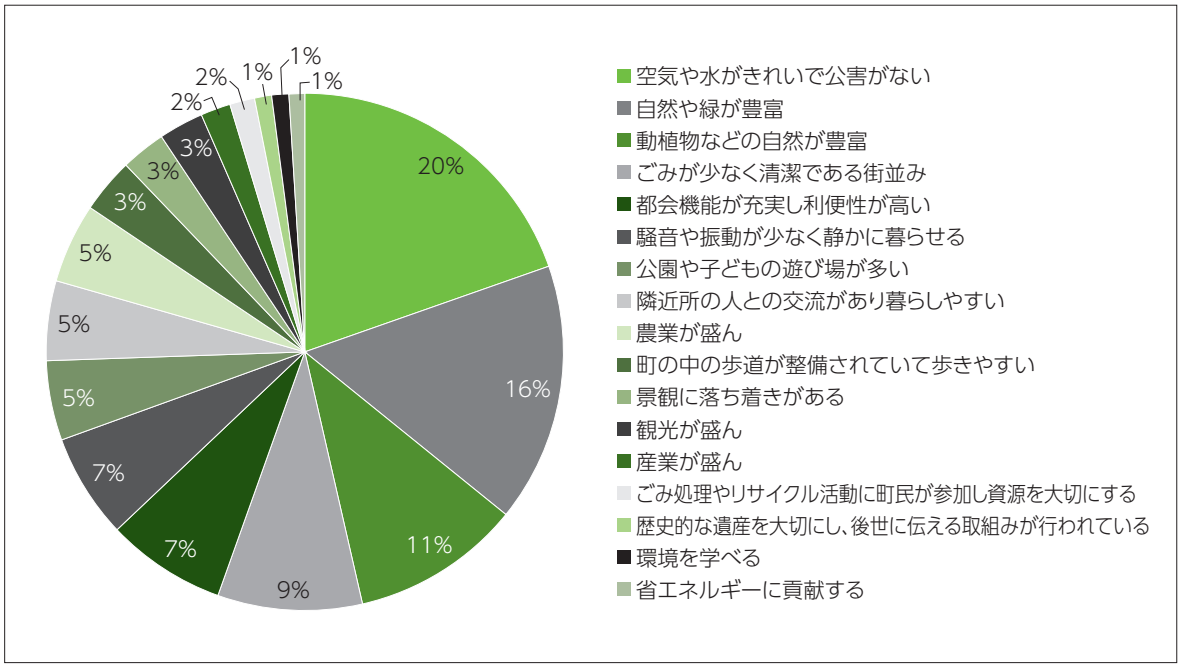
①町民

町民にとって快適な環境とは、「自然環境の豊かさ」と「生活環境整備の充実」の共存をイメージしていることがうかがえる。



②中学生

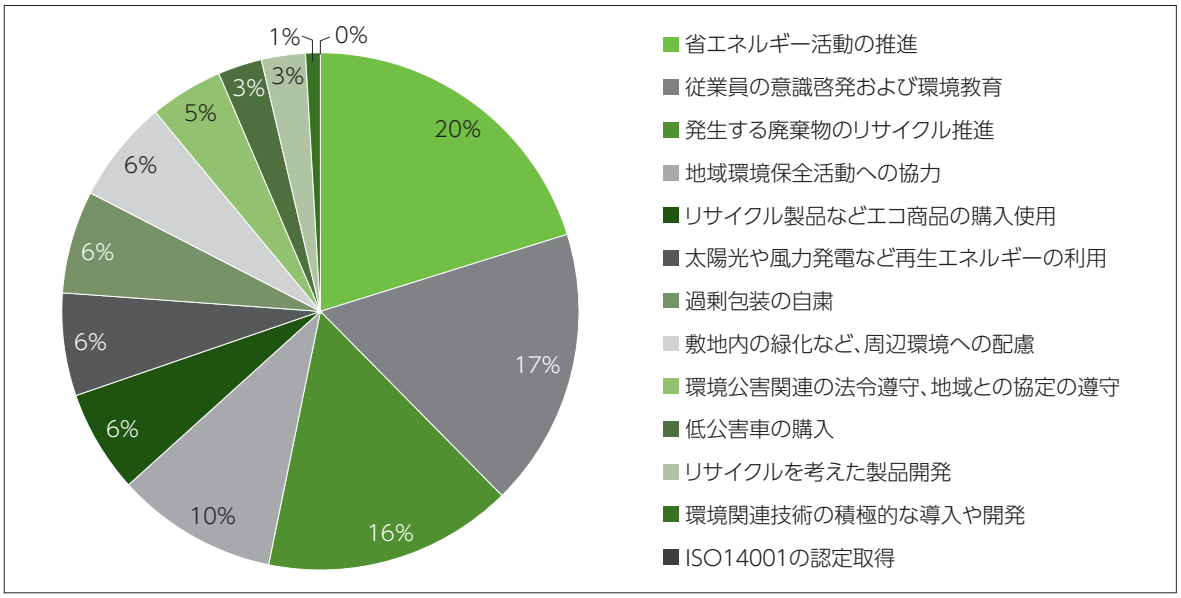
中学生にとって快適な環境とは、「自然環境の豊かさ」をイメージしていることがうかがえる。
また、都市機能の充実も快適な環境の要素と考えていることがうかがえる。



2−3　事業者へのアンケート結果

1 環境問題として、関心のあるもの

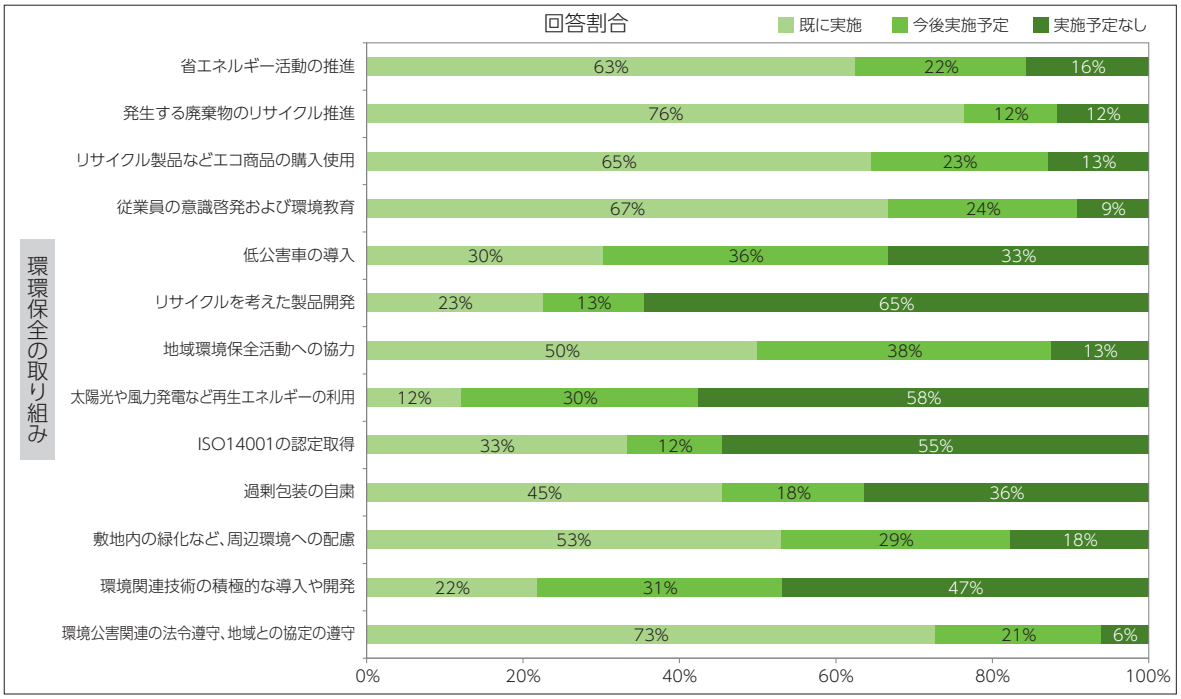
「省エネルギー活動の推進」「従業員の意識啓発および環境教育」「発生する廃棄物のリサイクル推進」の3つの選択回答で半数以上を占めている。



2 環境面での取り組み状況

前設問の環境問題として関心が高い結果となった項目は、「既に実施」「今後実施予定」を合せた割合が高くなっている傾向がある。

環境公害関連の法令遵守、地域との協定の遵守について、前設問の結果は関心があまり高くなかった。取り組み状況は、「既に実施」「今後実施予定」を合せ94%となり、最も割合が高くなっている。これは法令など遵守が事業活動に組み込まれていて、関心の対象から外れていることが要因と思われる。



2−4 アンケートまとめと取り組むべき課題

【 町民、中学生 】

町民、中学生を問わず、町の自然環境・環境には、おおむね満足しているが、田畑・森、林などの自然環境の減少、住宅地・商業施設・工場事業所・自動車交通量など、都市化を感じていることがうかがえる。

生活においては資源の節約、再利用、ごみの削減、緑化、都市景観の保全について非常に関心が高く、身近な行動が実践されていることがわかった。

関心のある身近な環境については、水質汚濁・大気汚染などの生活環境と同じように災害時の生活環境への関心が高いことがわかった。昨今各地で発生している自然災害の状況が背景にあり、被災時における肉体的・精神的負担への不安を持っていると想像できる。

また「自然環境の豊かさ」と「生活環境整備の充実」の共存が快適な環境との認識が強いことがわかった。

一方、竜王町で実施している環境保全の取り組みや補助制度については十分な認知状況ではない結果となった。

以上のことから町民の環境への思いは、自然と都市機能の調和が優れ、災害時の環境対策まで考慮した生活環境が確保されるところであり、これらが取り組むべき課題となる。

【 事業者 】

環境問題としては「省エネルギー活動の推進」「従業員の意識啓発および環境教育」「発生する廃棄物のリサイクル推進」の関心が高く、約70%が既に実施されていることがわかった。また実施予定を含めると80%となっている。反面、「低公害車の導入」や「太陽光や風力発電など再生エネルギーの利用」への取り組みは低かった。